

平成26年度調査報告書

「経済連携協定外国人看護師における国家試験合格後の課題」

そのⅠ：国家試験合格者受入れ施設の課題

目次

| | | |
|-----|-------------------------------|-----|
| I | 調査の概要 | p2 |
| 1. | 調査の目的 | |
| 2. | 調査の対象 | |
| 3. | 調査の時期及び方法、調査結果の解析 | |
| 4. | 回答の状況 | |
| 5. | 倫理的配慮 | |
| II | 調査の結果 | |
| 1. | 受け入れ施設での国家試験合格までの教育支援 | p3 |
| 2. | 国家試験合格後の状況 | |
| 1) | 外国人看護師の業務評価 | p3 |
| 2) | 外国人看護師の日本語能力 | p6 |
| 3) | 外国人看護師について（長所、短所、リスク管理上の問題など） | p9 |
| 4) | 国家試験合格後に必要な支援 | p13 |
| III | 調査総評 | p16 |
| IV | 謝辞 | p17 |

平成27年6月30日

NPO 法人外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

調査責任者 青野淳子

I 調査の概要

1. 調査の目的

経済連携協定（EPA）に基づき来日し看護師国家試験に合格した者（EPA 看護師）について、その受入れ施設の側から合格後の課題を検討する。

2. 調査の対象

第 100 回から第 103 回における看護師国家試験合格者受入れ施設合計 80 のうち帰国または転院のため合格者が不在（ゼロ）となった 18 施設を除く 62 施設である。

3. 調査の時期及び方法、調査結果の解析

平成 26 年 10 月初旬に調査対象施設へ郵便にて調査票を送付し、郵送にて回答（無記名）を受領した。回答は 26 年 10 月から 12 月までに受領した。

データの統計解析は χ^2 検定を用い、 p が 0.05 未満を有意差ありとした。

4. 回答の状況

62 施設のうち 32 施設（50.0%）より回答を得た。うち 2 施設では記載不十分のため無効としたので、有効回答施設数は 30 である。回答は 10 月中旬から 12 月下旬までに受領した。

表 1 回答率

| | 回答施設総数 | 有効回答施設数 |
|-------|---------------|--------------|
| 回答施設数 | 32 | 30 |
| 回答率 | 51.6% (32/62) | 48.4%(30/62) |

表 2 有効回答施設における調査対象者の合格年度と人数

| 合格年度 | 施設数 | 調査対象者数 |
|-------------------|-----|--------|
| 2011 年度（100 回）合格者 | 5 | 5 名 |
| 2012 年度（101 回）合格者 | 16 | 20 名 |
| 2013 年度（102 回）合格者 | 6 | 6 名 |
| 2014 年度（103 回）合格者 | 10 | 10 名 |
| 合計 | | 41 名 |

5. 倫理的配慮

本研究は当法人倫理委員会の承認を得て実施した（承 2013002 号）。

II 調査の結果

1. 受入れ機関での国家試験合格までの教育支援

昨年度までの調査において2011年度から2013年度の看護師国家試験合格者については調査済みのため2014年度の合格者についてのみ調査した。

結果は集計中

2. 国家試験合格後の状況

本調査は16年10月に実施したので、アンケート回答時EPA看護師は国家試験合格後正看護師として約半年（第103回国家試験合格者）、約1年半（第102回国家試験合格者）、約2年半（第101回国家試験合格者）または約3年半（第100回国家試験合格者）勤務後に評価を受けたことになる。

1) 外国人看護師の業務評価

[方法]

看護師業務17種類について、EPA看護師の業務成績を評価した。評価方法として、EPA看護師が日本の国家試験に合格し正看護師として入職したと同時期に新人看護師として入職した日本人看護師の平均的能力に比較し、日本人と「同等にできる」場合を1とし、「やや不足」を2、「不足」を3、同程度よりも「優れている」場合をSと評価した。

[結果]

図1に第103回国家試験合格者（第103回合格者）、図2に第100回国家試験合格者（第100回合格者）の業務成績を示した。

- ① 図1に示したように、第103回合格者は17種類の業務のうち5種類（バイタルチェック、薬配布、静脈注射、排泄援助、食事介助）で67%から89%の者が日本人看護師と「同等にできる」の成績を示したにすぎないが、図2に示したように第100回合格者は記録（手書き）及び退院指導を除く15種類の業務で60%から100%の者が日本人看護師と「同等にできる」と向上した。申し送りをする（ $p < 0.022$ ）、記録（電子）（ $p < 0.011$ ）、夜勤当直（ $p < 0.005$ ）、及び検査診断介助（ $p < 0.024$ ）では有意に向上した。
- ② EPA看護師の不得手は記録（特に手書き）、次いで相談と退院指導である。記録（電子）は第100回合格者では80%以上の者が日本人看護師と「同等にできる」まで有意に向上したが、記録（手書き）は第100回合格者にあっても「やや不足」であり、報告では「やや不足」20%、「不足」20%である。
- ③ 1種類以上の業務で日本人看護師より「優れている」との成績を得た者はいない。
- ④ 17種類すべての業務で日本人と「同等にできる」との成績を得た者が1名（第101回合格者）いる。
- ⑤ 第100回合格者ではバイタルチェック、コミュニケーション、夜勤当直、検査診断介助、静脈注射、輸液管理について全員が日本人と「同等にできる」との成績である。

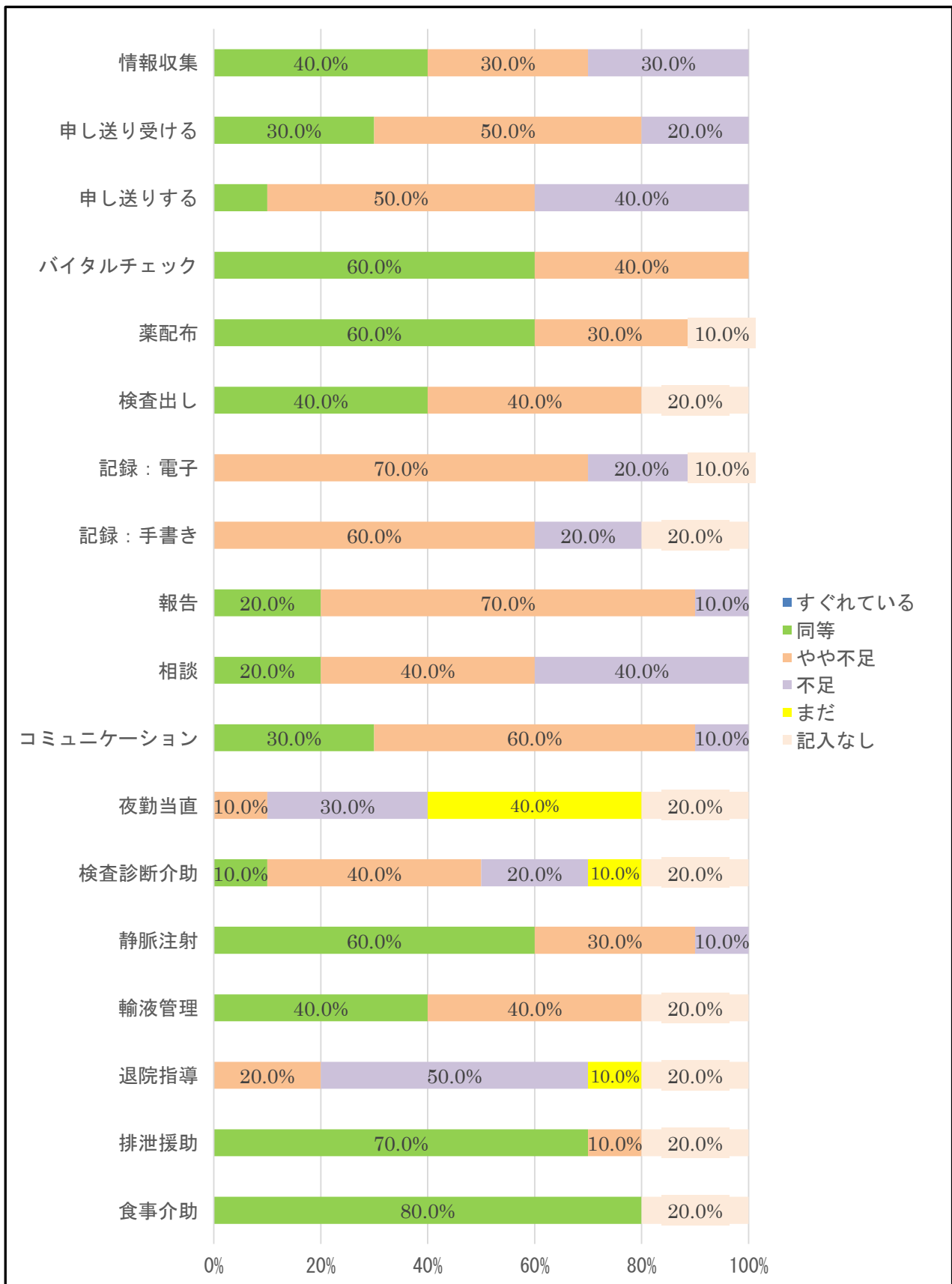


図1 第103回国家試験合格者（EPA看護師）の業務成績

第103回国家試験合格者の業務について、同期入職の日本人看護師に比較した。

S:優れている、1:同等にできる、2:やや不足、3:不足、まだ:未経験

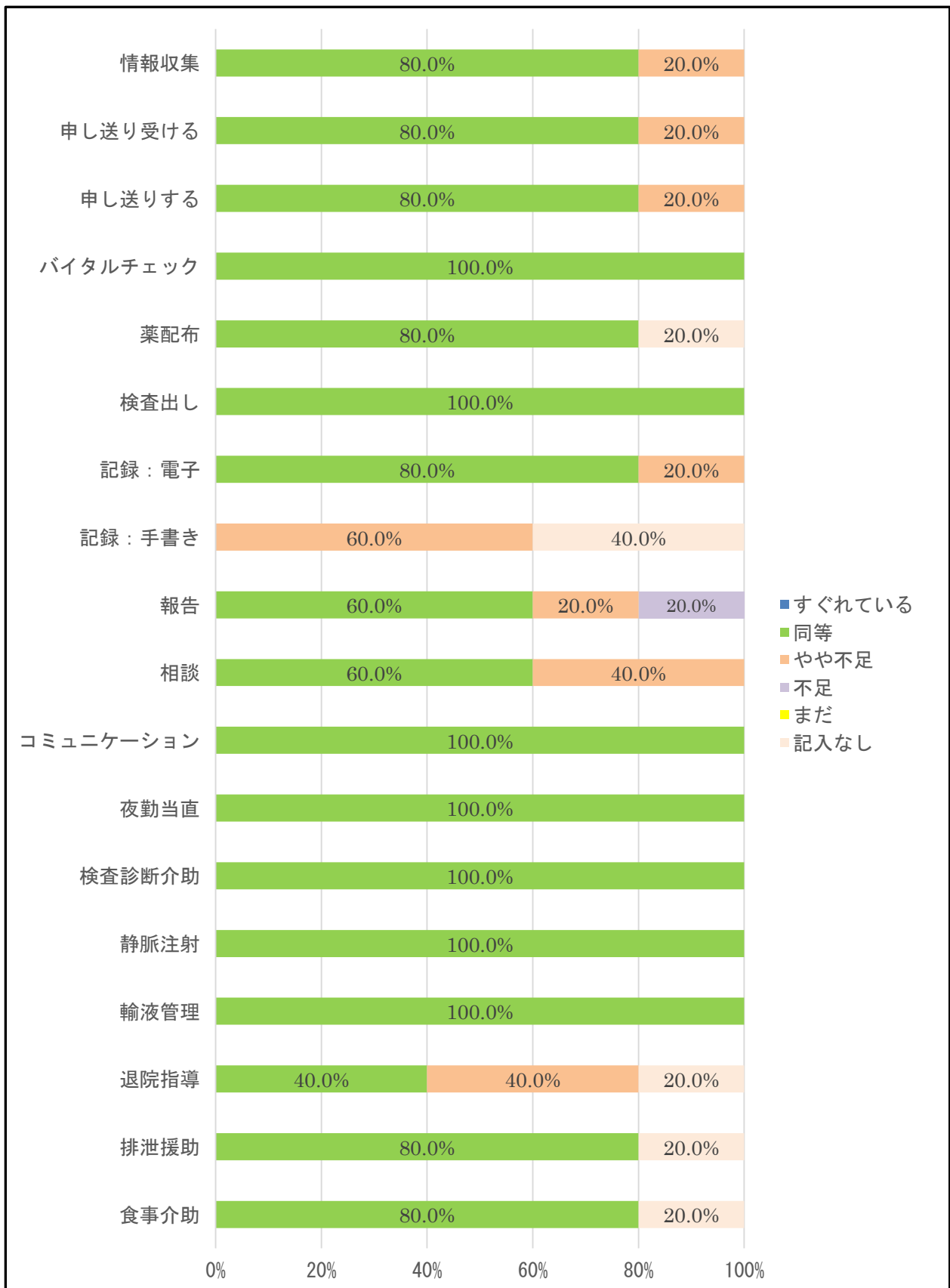


図2 第100回国家試験合格者（EPA看護師）の業務成績

第100回国家試験合格者の業務について、同期入職の日本人看護師に比較した。

S:優れている、1:同等にできる、2:やや不足、3:不足、まだ:未経験

2) 外国人看護師の日本語能力について

問 2. 1 「外国人看護師の日本語能力について評価してください」

EPA 看護師の日本語能力を「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」について、4段階（1：満足している、2：まずまずである、3：やや不足、4：大いに不足）で評価した。

- ① 図 3 に示したように、第 103 回合格者では、「まずまずである」以上の評価は、「読む」90%、「聞く」70%、「話す」50%、「書く」40%であり、「話す」と「書く」で日本語能力が不足していることが明白である。第 100 回合格者では、「まずまずである」以上の評価は、「読む」・「話す」・「聞く」100%、「書く」90%である。
- ② 「話す」と「聞く」は勤務年の長さに比例して「満足である」が増加し、「聞く」は第 100 回合格者で有意に向上した（ $p < 0.018$ ）。
- ③ 「書く」は第 103 回合格者では「やや不足」50%、「大いに不足」10%であったが、第 100 回合格者では「やや不足」20%、「大いに不足」0%と向上したが、有意ではなかった（ $p < 0.05$ ）。

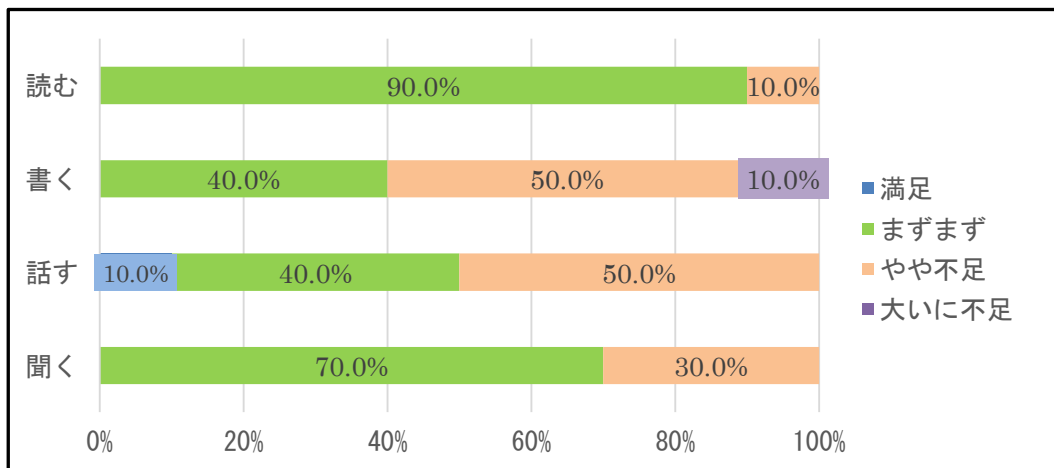


図 3 第 103 回合格 EPA 看護師の日本語能力

第 103 回看護師国家試験合格 EPA 看護師の日本語能力（読む、書く、話す、聞く）を 4 段階（1：満足している、2：まずまずである、3：やや不足、4：大いに不足）で評価した。

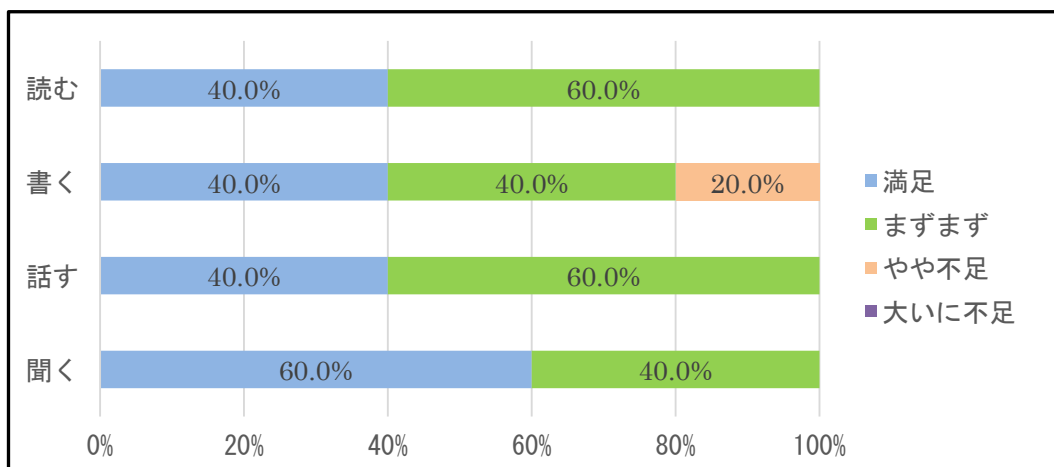


図 4 第 100 回合格 EPA 看護師の日本語能力

第 103 回看護師国家試験合格者の日本語能力（読む、書く、話す、聞く）を 4 段階（1：満足している、2：まずまずである、3：やや不足、4：大いに不足）で評価した。

問 2. 2 「外国人看護師の日本語能力で特に不足(問題)と感じていることは何ですか。」

回答は原文のまま、内容により「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」「その他」に大別して示す。

【読む】

- ・細かい言い回しや、表現などの理解がむずかしい(例：つまり、辛うじて、さらなる、ならびに、しがてら、いわゆる、・・・すぎず等の言葉の意味)
- ・医学用語、看護用語であっても読めない漢字・読み方が通常とは異なる(ex 流涎)漢字がある。

【書く】

- ・日本語で記録する場合時間を要することがあり、決められた時間内で行う事が困難な場合があります。(2名)
- ・漢字としての形が整えられていなく、読めない、助詞の使い方が間違っていて文章が繋がらない。文章が最後まで書けなく、名詞、体言止めで終わっている。
- ・看護記録などでも苦勞しているようである。
- ・漢字で表現すること

【話す】

- ・説明時、語尾・助詞のまちがいがあり、伝わりにくいことがある。
- ・真面目に日本語の習得に取り組んでいる、日本語には決定的言葉の後に「～とは言えない」「～でなかった」(例 良くない)等の言葉があり申し送りなどで困ることがある。・・・
- ・時々、先輩に対して友達に言う言葉使いの時がある。(本人は注意されると直ぐに正す事ができる)
- ・患者の状態を説明する時理解しにくい
- ・患者さんの状況を説明したり、申し送りがうまくできないことが多い。医師に報告する内容がうまく伝わらない。
- ・言葉がはっきりしないこと時がある
- ・発言をすることが日本語能力的な問題ではむずかしいと感じているようで、NS 同志のディスカッションや医師とのディスカッションには参加しなかったり、消極的だったりします。通常そろそろ経験してもよいようなチームナーシングの中のリーダー業務は現在行っていません。
- ・スタッフ間では言葉・会話は補いあえフォローできるが、対患者間となるとやや不安に思う事はあるが、患者から特にクレームを受けた事はない。
- ・家族と話す時、ていねい語等の使い分けができない、「家族から代わって下さい」と言われたことがある。
- ・患者、家族への細やかな指導は日本語能力的に困難

【聞く】

- ・あいまいな表現、ニュアンスを理解できないことがある、時間がかかることがある。
- ・言葉によっていくつかの意味に分けられている場合、理解する事が難しい事があり時間を要す

る事が有ります。

- ・早口は聞き取れない、医師の指示を聞きなおしたり、他スタッフに確認している。IC の内容が正確に聞き取れない→一人では記録できない。
- ・聞き取り、理解できないためコミュニケーションが取れない
- ・突発的な事項については、医師からの指示が伝わらない時がある。
- ・電話対応は難しい（聞き取りができない） 3施設
- ・救急対応。
- ・方言での訴えが理解できるか、緊急時での依頼に対応できるか
- ・患者・家族への同意書などの説明をされていて質問を次々とされたり訴えの多い方への対応には困り、リーダーナースに応援を依頼することがあります。対応に困れば自分できちんと伝えることができるので大きな問題ではありません。
- ・単語は理解できている。コミュニケーション中に聞き取れず困ってしまうことがある。
- ・Dr の指図、患者様の訴えの聞き取り、コミュニケーション、他のスタッフへの申し送り
- ・わからない時はわからないと言ってほしい。後でさっきは伝わったかと確認するとわかっていたということがある。
- ・申し送りのような長い日本語になると十分に理解できない、わかったと返事するが実際には十分に理解できていない。
- ・医師の指示受け（理解不足）小さな受けミスがあります。
- ・日本語特に日常会話はスピードが速かったり、訛りが強い場合（高齢者）にはフォローが必要である。
- ・特に不安ではないが聞いて理解することは一部できない時がある。（相手の口調や早さにも関係する）

[その他]

- ・漢字の読み書き
- ・漢字で表現すること
- ・返事について、理解できているのかわからないのに何でも「はい」と答えてしまう所
- ・日本語能力が不足していることは、本人も自覚しており、それを分かったうえで指導しているので、特に不足していると感じたことはないです。

[特になし] 2施設

[記載なし] 3施設

問 2. 2 の要約

30施設のうち27施設より回答を得た。うち2施設は特になしと回答した。のこりの回答は「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」に分かれた。「書く」では漢字での表現が苦手であること、「話す」では患者や家族への説明で丁寧語が上手く使えない、「聞く」では電話対応、緊急対応、医師からの指示受け、患者からの聞き取りなどに不安がある、「はい」と返事してもわかっていないことがあるなどの問題が指摘された。

問 2. 3 「日本語能力試験を受けたことがありますか。その時期と結果（合否）を教えてください。」

日本語能力試験の受験状況を表 3 に示した。15 名の受験経験者のうち N1 受験者は 6 名であり、合格者は 2 名（いずれも第 101 回合格者）であった。

表 3 日本語能力試験の受験状況

| 受験経験あり | 受験経験なし | 回答なし |
|--------------|--------------|--------------|
| 15 名 (36.6%) | 15 名 (36.6%) | 11 名 (26.8%) |

問 2. 3 回答の要約

「日本語能力試験」受験の経験者は 36.6% (15/41)、未経験者 36.6% (15/41)、無回答 26.8% (11/41) であった。N1 合格者が 2 名。

3) 外国人看護師について

問 3. 1 「看護師として日本人看護師よりも優れていることは何ですか。」

回答は原文のまま下記に示す。

(仕事に対する姿勢など)

- ・ 学ぶ姿勢、誠実、謙虚、看護に対する熱い思い（例：「患者は家族」であるという思い
- ・ 看護業務を誠実に行っている
- ・ 真面目で何事にも謙虚にとりくむ、やさしい、気配りができる、学習意欲が高い
- ・ 礼儀正しい
- ・ 視野が広い、行動力がある、学習意欲・学習能力、後輩指導に熱心
- ・ 好奇心が旺盛である、何事にも前向きに取り組んでいる
- ・ 何事にも積極的であり、周囲への声かけや、思いを伝え、誰とでも仲良くなれる
- ・ 仕事に対する姿勢に好感が持てる
- ・ 低姿勢で積極的（自ら色々な事を学ぼうとしている）、謙虚である
- ・ 忍耐力、努力
- ・ 甘えがなく忍耐強い
- ・ 看護技術は特に問題ない、物事に対して冷静な対応ができる
- ・ 学ぶ姿勢、働く姿勢は日本人よりしっかりしている、
- ・ 自己学習等かなりいっしょうけんめい頑張っている
- ・ 気分の変動が少なく、いつでもフラットにコミュニケーションが図れる、患者への見方や判断が論理的
- ・ 情報収集は言葉がちがうがよくできている

(患者さんへの対応)

- ・患者さんへの優しさ
患者さんの対応が感情的にならず優しい、ゆっくりと話かけられているので患者も安心するのではないかと思われる
- ・思いやり気配りが細やかな部分までできます
- ・優しい、丁寧
- ・対応がていねい
- ・患者様に対しては、やさしく気長く接していると思う
- ・仕事を1つ1つ丁寧に行う
- ・日常生活上の世話全般丁寧であり、患者より「日本人のNsよりも一番上手」とほめられたことがある。
- ・患者さんの話しをよく聞いてくれる、ゆっくりと、元気よく接してくれる
- ・外国人の患者対応は出来る（英語）

(英語力)

- ・英語が話せる、いつも笑顔で明るい
- ・英語力がある
- ・就労外国人の方が多い地域であることにより外国の方の外来受診や入院患者も多く、通訳（英語、タガログ語）は、医師・看護師ともに非常に助けてもらっています

(その他)

- ・特になし 2施設
- ・記載なし 1施設

問 3.1 回答の要約

30施設のうち29施設より回答を得た。

回答の内容は「仕事に対する姿勢」、「患者さんへの対応」、「英語力」、「その他」に分けられた。数として最も多いのは「仕事に対する姿勢」で、仕事に対する姿勢が誠実、謙虚、積極的、学習意欲が高いなど好感が持てるとしている。次いで「患者さんへの対応」で、優しい、丁寧、細やかな気配りができるなど。「英語力」があるので外国人患者の受診や入院で役に立っている。2施設では「特になし」の回答であった。

問 3.2 「看護師として日本人看護師に比べて好ましくない（改善してほしい）ことは何ですか。」

回答を原文のまま下記に示す。

(時間管理)

- ・若干の時間の厳守さ
- ・時間の管理（大雑把）

- ・提出物や約束の期限が守れず声かけがその都度必要であり価値観の違いを感じる
- ・時間に余裕を持った行動
- ・期限守れない
- ・時間に少しルーズ 4 施設
- ・提出期限を守らない 2 施設

(仕事に対する姿勢など)

- ・資格をとれば勉強は不要と考えているところ
- ・常に学習し続けてほしい、国試に合格して日常業務もこなせるようになっているところで満足している様、勉強しよう、知識を増やそうという学習心の向上がみられない
- ・雑な面（ケア等）がある、やさしいことばかけ（声かけ）、時間ギリギリ、前もって情報収集する事等は全くない、責任感の不足
- ・患者様に対しての尊厳が不足している。（声かけが子供あつかい。）
- ・お祈りをしに行く時、他の職員への声かけがない。（受け持ちが不在となる。）
- ・実施したケアに対し、どうなったかと最後まで見届けてほしい
- ・休みの取り方、飛行機のチケットを取ってしまってから、休みをくださいと言ってくる所

(コミュニケーション)

- ・保守的、あまり社交的でない
- ・スタッフ同士のコミュニケーションをもっととってほしい、例えば昼食も別にとっているが、いっしょに食事をしながら情報交換することも多いので、できれば同席して欲しい
- ・日本語がわからず、自信がないのか、全てにおいて受け身がちな姿勢
- ・改善を希望するところはありますが、日本人だからインドネシア人だからという風には考えたことはありません。向上心、積極性がもう少しあればと思います。
- ・フレンドリーな態度が業務上支障をきたすこともある
- ・感情的になりやすい

(その他)

- ・言葉のニュアンス（日本人でもむずかしいが）
- ・英語をもうちょっと勉強してほしい（外人の患者がさいきん多いため）
- ・厳しさをもう少し減らしてほしい
- ・ラマダン以外の食事制限をしている
- ・特になし 13 施設
- ・記載なし 3 施設

問 3.2 回答の要点

30 施設のうち 27 施設より回答を得た。うち 13 施設は「特になし」と回答した。のこり 14 施設の回答内容は「時間管理」、「仕事に関する姿勢」、「コミュニケーション」、「その他」に分かれた。

「時間管理」では時間厳守が苦手な期限が守れないなど、「仕事に対する姿勢」では仕事が雑である、仕事に対する責任感がない、学習意欲がないなど、「コミュにケーション」ではスタッフとの情報交換に努めてほしいなど。

問 3. 3 「リスク管理上、問題を感じたことがありますか。ある場合は具体的に書いてください。」

回答は原文のまま下記に示す。

(事例)

- ・抗凝固剤入りの生食を輸液ポンプを使用せず、自然滴下してしまったことがあった。生食に名前と抗凝固剤の入ったシールは貼ってあったが、気に止めず思い込みで行った。
- ・簡単に自己判断で安易な方を選択しがち、
ex. 重症患者で尿量が次第に減少し、乏尿状態、Ba カテーテルを留置するか否かの時何の根拠もなく「しなくていいです。」と即答
- ・休み明け等で出勤してきて、指示内容の変更を確認しないでしようとする。
ex. 軟膏の種類、入浴の痲疲、O₂ 流量、資料を確認すれば問題ないことなのに思い込みで動いていることがある
- ・側注 2 種類を同時に短時間で落としており、患者様に与える影響をあまり考えていなかったのではないかと。
- ・バイタルを測った後の報告がなかった（患者が創痛を訴えていたのに誰にも相談がなかった）
- ・救急対応に興味があるため、救急患者がくると受け持ち患者を放ってしまったことがあった。
- ・まだ一人で指示受けが出来ないのに、先生の指示を 1 人で受けてしまった。
- ・十分理解しないで、患者対応（ケア処置）していること。
- ・呼吸器のアラームをとめていたので、何のアラームだったのか問うと、アラームの意味を理解していなかった
- ・エラーなどが生じて確認した時に「わからない」という言動が度々あり指導を要した、他のスタッフも困っていた
- ・パソコン上の記録に残されていることは問題なく理解し、実施できるが口頭での申し送りは十分理解できない時もある。（当者の問題だけでなく、記録に残していない者や、申し送りのみですませていることが問題）
- ・指示受けが確実に伝わり、実行できない時がある。緊急性の判断にズレが生じる

(課題)

- ・日本でのシステム（内服や注射薬のチェック）が十分に理解できない、または時間を要する
- ・リスクの認識が日本と違う
- ・日常会話、専門的知識の再理解
- ・同職に就く人たちのコミュニケーション、情報交換の場
- ・報告、連絡、相談する日本語レベルが低い

- ・検査科など他部門との電話でのやりとり、顔が見えないためお互いきちんと理解し、伝達できたかどうかの確認がむずかしい
- ・コミュニケーション、姿勢の面でトラブルになりやすい（細かい配慮が不足）
- ・優先順位の判断が難しく、周囲のサポートが必要である（状況判断ができない点とコミュニケーションの両面で）
- ・「返事」ができていてもできないことが多いため、簡単なことでもまかせきりにできない
- ・指示や説明を理解できない時でも「分からない」や質問がない
- ・補助者として入職当初はわかっていなくても「はい」と言うことがある等、不安を感じたこともありますが、現在は特別にリスク管理上の問題を意識することはありません。患者さん、病棟内のトラブルは大丈夫と思います。組織の知らないところでのつながりや活動があるようなので、組織管理上のリスクはあると感じます。

（リスクへの対処）

- ・リスクの高い処置は、リスクを伴うので配置できない。担当も選択している。
- ・夜勤は日本人看護師と2名でできるようになりました。重症患者が多いと心配です。日本人看護師の負担も大きくなります。
- ・夜勤は一人だちはしていません。基本的には大きな処置、危険な事はまかせておりません。救急の電話対応は、やめていただきました。
- ・手術の症例を選択して業務についてもらっているため、大きな事故はないです

（その他）

- ・特になし 16 施設
- ・記載なし 1 施設

問 3.3 回答の要点

30 施設のうち 29 施設より回答を得た。うち 16 施設では「特になし」との回答であった。のこり 13 施設の回答内容はリスクのあった「事例」、「課題」、「対処」及び「その他」に分かれた。具体的な 12 事例が示された。リスクに通じる「課題」として優先順位の判断が困難、「ハイ」と返事してもよく分かっていないことがあるなど。リスクへの「対処」として配置、担当などにおいて工夫をしているなど。

問 4 「どのような支援があればよいとお考えですか。」

回答は原文のまま下記に示す。

（日本語教育）

- ・日本語教育のサポート
- ・継続した日本語教育（臨床現場で活用出来る会話力を身につける）
- ・合格者については、その後の日本語のフォローがあればありがたいです。日本語教育について

は我々も専門的に指導できず、また外部には研修や教材はありますが、有料かつ高額（本人達にとって）なところが多いので本人達がやろうとしないのが現状です（2施設）

- ・合格後に日本語教室あると
- ・国試合格後の看護技術や病気の知識などの理解を深めていくのに時間を要している。合格前は国試の問題の理解でよかったが、合格後は患者や家族とのコミュニケーション、説明、確認、記録と日本語能力を更に必要とする能力が求められてくるし責任も発生してくる。合格後に現場で求められる日本語の学習支援があると EPA 看護師のモチベーションアップにつながると考える。
- ・国家試験合格後日本で働くこととなるが、その際には日本語ができないと業務ができない。そのことは本人達も分かっているが、どうしても国試合格に向けての勉強を優先しがちである。合格後の日本語学習支援プログラムがあればいいと思った。本人も日本語検定受験も考えていたようだがどうやって学習すればいいのか分からないと受けていない現実である。また、受け入れる側も、対象を理解する為に何か事前に準備できるようなもの（誰でも分かるようなマンガ形式、DVD など）があれば、スタッフ教育にも使えるのではないだろうか。
- ・来日して5年になる。本人の中で、これ以上の日本語習得は難しいと、あきらめているところがある。来日してから早期のうちに、ある程度の日本語習得がなされるよう支援していく必要があるのではないか。（国試に合格することも大事だが、、、）

（研修）

- ・病院間で差が出ないように卒後教育内容を検討していく、
- ・卒後教育
- ・いつも気にかけていただきありがとうございます。外国人看護師全体の研修企画があるとよいと思います。

（メンタルサポート）

- ・メンタルサポート
- ・精神的サポートを定期的に受ける機会をつくる。
- ・外国人看護師同志の研修や情報交換できる企画をお願いします。

（生活支援）

- ・この度、施設間の異動を考えているが、手続きが難しいようなので、なるべく早く実践できるような仕組みであつたらと思います。
- ・永住等についての情報や支援
- ・結婚した場合の配偶者のケア、日本語の習得など
- ・当院のナースは家族を日本に呼びました。その夫となるべき人の就労に際し、日本国入管と何回か戦いました。今は就労を認められて、28時間/週を守って働いていますが（子供は小学校へ編入しました）その辺りの情報は入りにくかったので、、、「家族の支援」についても力を貸していただきたかったです。今は逆に家族の受け入れに関して悩んでいる施設にアドバイスできると思います。

(日本社会・日本文化理解)

- ・日本の文化を伝えていくことは難しいと思われませんが、その場の重要性の違いを感じることもある為、日本の文化を理解してもらえらる学習の時間があれば良いのではないですか。
- ・現場で一番問題になるのはコミュニケーションであると考えます。仕事ができるできないというよりは、日本での文化背景を知り、上手にスタッフや患者さんと関わり、溶け込もうとする姿勢も必要だと考えます。そのような支援をフォローUPしてほしいと思います。(現場は忙しくなかなかその余裕もないと考えます)
- ・やさしい、丁寧なことば使い
- ・時間配分
- ・日本の看護師の業務についてあらかじめ教えておいてもらいたい(時間外や残業あることなど)
- ・事前に自分の希望する病院の見学をしてから、配属先を決定してほしい(不満が少なくなるのではないか)
- ・色々な病院への見学・実習を行ってほしい
- ・日本の医療保険の制度や就労するにあたっての税金、雇用保険、年金等の説明が十分にできない点でのフォローがあれば良いと思います。又同国との方との交流の機会や精神面での支援等もあればよいと思います。
- ・イスラム教について詳しく教えてもらいたい。

(その他)

- ・現状どおりでよいと思います。
- ・フィリピンナースの個別性や、当院における看護師教育の在り方等もあるので、具体的に何を支援していただきたいというものは思いつきません。他施設などのあり様を聞かせていただければ参考にさせていただきたいと思います。
- ・本人の能力、本人の気持ち次第で日本語能力も向上していくと思いますので。
- ・現在常にスタッフがいる状態の中で働いている。人的ゆとりがあれば、もっと色々な経験を積ませる事ができる為、当院としての努力目標。
- ・私生活はわかりませんが、本人がもし困っているようなことがあれば対応してほしい
- ・入職当初はコミュニケーション能力向上のための支援(読書話全て)、生活支援(ガス水道料金の支払いや通知葉書の説明等)がほしいと思いました。今は入国前のフォローがあるとよいと感じます。ただ、支援を申し出て下さる複数の組織があるようですので、そのあたりの難しさを感じたこともあります。

・記載なし 8施設

(帰国者または無効回答におけるコメント)

- ・合格後日本語のフォローアップは必要だと思います。特に看護記録を書くための言語知識や聴解、読解力の能力アップの支援が大事だと思います
- ・結婚されている時などは家族の生活環境、精神的状態などの確認と支援をお願いしたいと思

ます。

問4 回答の要点

30 施設のうち 22 施設より回答を得た。

22 施設の回答は「日本語教育」、「研修」、「メンタルサポート」、「生活支援」、「日本社会・文化理解」、「その他」に分かれた。国家試験合格後も「日本語教育」支援への強い要望がある。家族と日本で暮らすための「生活支援」、日本社会や日本文化の理解に努めることが必要であることなど。

Ⅲ 調査総評

本アンケートは大部分が記述形式であるが、多くの施設（51.6%、32/62）より丁寧なご回答をいただいた。

1 EPA 看護師の業務評価について

評価対象業務は昨年同様 17 種とした。評価は EPA 看護師と同期入職の日本人と比較したもので、各施設の主観的判断によるものであり、すべての施設に共通した判断尺度によって客観的に評価したものではない。したがって、本調査の結果に対する信頼度は限定的である。

本年度調査の対象 EPA 看護師は第 100 回から第 103 回の看護師国家試験合格者である。国家試験合格後正看護師としての勤務期間は第 100 回合格者では約 3 年半、第 103 回合格者では約半年である。

第 103 回合格者では 17 種の業務のうち、食事介助を除く 16 種の業務で「やや不足」や「不足」の者がいる（10%～90%）が、第 100 回合格者では「不足」は「報告」（20%）のみ、「やや不足」は「記録」、「報告」、「相談」、「退院指導」、「情報収集」、「申し送り」を含む 7 種の業務に減少している。また、第 103 回合格者では夜勤当直など 3 種の業務では未経験者もいるが、第 100 回合格者では未経験の業務はない。これらの結果より、3 年半余の勤務経験を経ても EPA 看護師は問題を抱えていることがわかる。とくに記録（手書き）では全員が「やや不足」である。「やや不足」や「不足」の業務にはより高度な日本語力が要求されると推定され、国家試験合格後も積極的な日本語教育が必要であると思われる。

当法人では国家試験合格者に対する日本語学習支援をしている（毎週土曜日）が、参加者が少ない。その理由として、仕事に疲れて、モチベーションを保つことがむずかしいことがあげられる。

2 EPA 看護師の日本語能力

EPA 看護師の日本語能力は勤務期間に比例して向上した。第 100 回合格者では「読む」、「話す」、「聞く」で全員が「満足」または「まずまず」の評価を得ているが「書く」ではまだ「やや不足」（20%）の者がいる。これより日本語能力は業務を通じ順調に向上するものの、「書く」についてはいっそうの努力が求められる。

日本語検定試験の受験者は 15 名（36.6%）おり、N1 合格者が 2 名いる。検定試験の受験は日本語学習のモチベーションになり、合格証は本人の財産となるので是非挑戦を促していただきたく思

う。

3 EPA 看護師の特徴

EPA 看護師は仕事に対する姿勢や患者さんへの対応で大変高い評価を得ている、また英語力があるので外国人患者への対応ができるなどの好評がある。一方、時間管理がゆるい、責任感が不足している、向上心に欠ける、「ハウレンソウ」の不足、スタッフ同士のコミュニケーションへの努力不足など正反対の評価もある。働き方にも文化の違いが反映しているように思う。

リスクについては昨年度までのアンケートではリスクに対する対処ができていたため特に発生例はないとされていたが、本年度の回答ではリスク例があること、発生の原因としてリスク認識の違い、日本語能力の不足、「はい」と返事しても分かっていないことがあるなどが挙げられている。リスクの原因に日本語能力の不足があることは留意すべきことである。

4 国家試験合格後の支援

例年より多くの回答をいただいた。内容は日本語教育、研修、メンタルサポート、生活支援、日本社会・文化理解などについてである。当法人では平成 24 年 9 月より国家試験合格者を対象とした日本語教室を開講している（毎週土曜日）（大森）が、地方の方など教室に来れない方のために skype による指導を検討したいと思う。

EPA 看護師が継続的に日本で働くためには、日本へ配偶者を呼び寄せ生活できるように支援することは大事である。そのような事例があることが明らかになった。ご回答を嬉しく読ませていただいた。事例集を編集する予定である。

IV 謝辞

回答者の皆様には、記述式のアンケートに丁寧にお答えいただきましたことに対し心よりお礼を申し上げます。データ整理及び統計解析でご尽力いただきました吉田襄氏に厚くお礼を申し上げます。